

糖尿病とアドボカシーについて

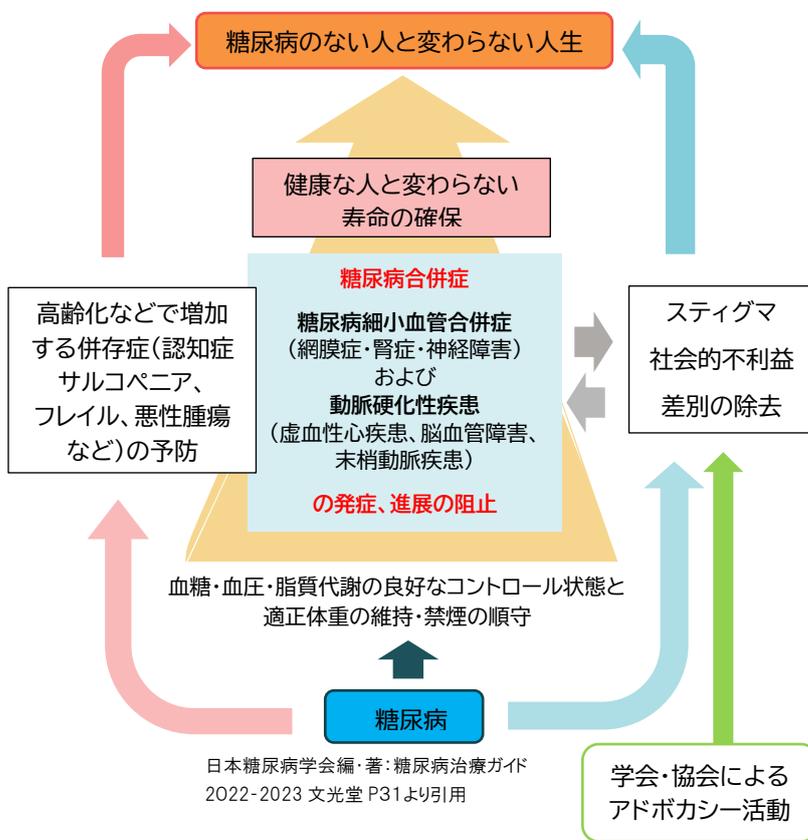


アドボカシーという言葉を見聞きしたことはありませんか？

「権利擁護」や「代弁」という意味で、当事者の声を聴き、意見や考えを表明できるようにサポートしたり、その人の価値観や信念に最も近い決定ができるように支援したりすることをアドボカシー活動と言います。

日本糖尿病学会と日本糖尿病協会は2019年にアドボカシー委員会を発足し、糖尿病を理由に不利益を被ることがなく、治療の継続により糖尿病のない人と変わらない生活を送ることができる社会環境の構築を目指したアドボカシー活動に力を入れています。

糖尿病治療の目標➡糖尿病のない人と変わらない人生



インスリンが発見されてから100年経ち、糖尿病は「生きるか死ぬか」の病ではなく、治療を継続すれば健康な人と変わらない人生を全うすることができる「**ともに生きる病**」へと変遷しました。

しかしながら、「糖尿病」というとマイナスイメージをもたれると感じた経験はありませんか？

「職場や家族に糖尿病であることを言えない」
「注射しているところを見られないようにしている」
「不摂生、自己管理ができないなどと思われる」
「低血糖を考慮して旅行や行事に参加できなかった」

こうした糖尿病に起因して社会的から受ける差別や偏見を**スティグマ**と言います。スティグマを放置すると、治療行動が困難になったり、自尊感情が低下したりするケースもあります。人生の質を大きく左右する問題であり、看過することはできません。

お困りのことがあればぜひ、ご相談ください



当院は、Hba1c7%未満(合併症予防のための目標値)で治療を継続していくことを目指しています(高齢者・妊娠例を除く)。注射が打ちにくいならば内服治療に切り替えるなど、選択肢を提示しつつサポート体制なども考慮して、お一人お一人に合わせた治療目標を設定しています。